2023 年　営巣状況

2023 年の十三崖は、営巣は確認されませんでした。これで、2020 年から 4 年間営巣がなかったことになります。その間、ハヤブサは毎年十三崖で繁殖を成功させています。ハヤブサはチョウゲンボウよりなわばり面積が広く、十三崖の広い部分を防衛し、チョウゲンボウを攻撃します。チョウゲンボウにとっては強大な敵です。しかし、過去 6 度の繁殖期でハヤブサとチョウゲンボウが十三崖で同時に繁殖したことがあります。また昨年の中野市周辺の建造物での集団繁殖地では、近くにハヤブサがいるにも関わらず少なくとも 10 羽以上の雌雄が入り乱れて飛来し、最終的には 6 つがいが営巣しました。過去の繁殖結果からは、チョウゲンボウとハヤブサの共存は可能といえます。

それではなぜ、チョウゲンボウは十三崖で繁殖しないのでしょうか。これまでの調査結果から、チョウゲンボウは自分が巣立った営巣地には戻らないことが多く、十三崖で繁殖する個体も中野市周辺の営巣地出身の個体が含まれていることがわかっています。このことから、十三崖周辺に生息するチョウゲンボウの個体数が少ない場合、十三崖に移動して来る個体も少なくなってしまいます。十三崖に 3 つがいから 5 つがいが繁殖していた 2005 年から 2010 年の頃には、十三崖周辺に 15 つがい以上のチョウゲンボウが繁殖していました。しかし十三崖での繁殖が 1 つがい以下となった 2017 年からは、周辺の繁殖つがい数は 8 つがいにまで減少しています。ただし近年は、十三崖周辺の繁殖つがい数が 12 つがい前後にまで回復してきています。その原因は北陸新幹線の開通により、高架などに営巣場所が増加したことなどがあげられます。チョウゲンボウにとってハヤブサは強大な敵には変わりありませんが、十三崖にチョウゲンボウが飛来し繁殖する可能性は高くなってきていると考えられます。

十三崖周辺に生息するメス成鳥